

皆さまの意見がまとまりました！

令和4年度市民アンケート結果の公表

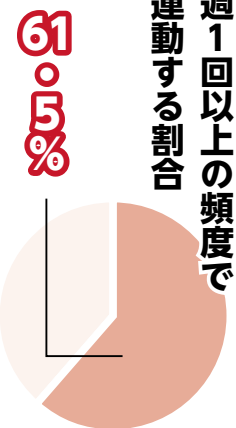
市民アンケートは、市が導入している行政評価制度の外部評価として、施策の効果とニーズを調査・把握するほか、市民の意識や意見などを集約し、今後の施策推進に活用することを目的としています。

今年度は満18歳から74歳までの市民900人の方に配付し、431人の方(回収率47・9%)から回答をいただきました。ご協力いただいた皆さまに感謝申し上げます。

市民アンケートの詳細な結果は、市ホームページで公開しているほか、各図書館でも閲覧できます。



週1回以上の頻度で運動する割合

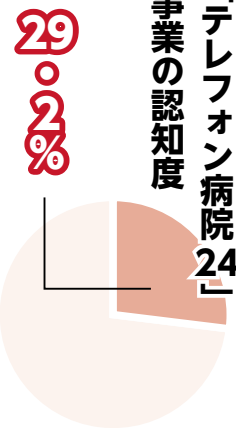


前年を8・7ポイント上回りました。主に行っている運動の内容をみると、ウォーキング・ランニングや筋トレ・体操などが全体の6割に及んでおり、コロナ禍により大勢が集まるスポーツイベントが中止される中、個人で実施できる運動にシフトしていることが分かります。



しかし、働き盛りといわれる40代の運動実施率が依然として低いことから、全年代で体を動かす機会が増加するよう、引き続き、運動やスポーツ活動による健康づくりの意識の醸成に努めていきます。

「テレフォン病院24」事業の認知度

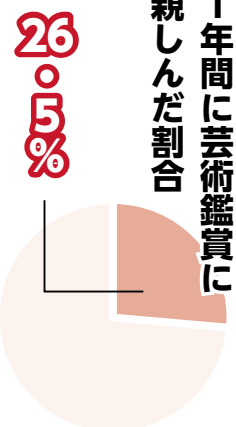


この事業は、医師や看護師などの専門スタッフが24時間体制で電話相談に対応するサービスです。

健康・育児・介護に関する不安や悩みの軽減・解消のほか、軽症患者の救急外来受診や救急搬送の抑制、医療費の削減も含めた地域医療の充実と市民の健康づくりを総合的に支援することを目的としています。

この事業を知っていた人の割合は3割を切っています。知った方法・手段として最も多かったのは「広報かつの」で、次いで「医療機関」、「ポスター・チラシ」の順となりました。今後は、もっとも認知度の低い若年層に向けて、より効果的な手法で周知していきます。

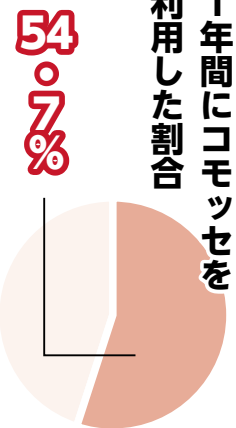
1年間に芸術鑑賞に親しんだ割合



前年を3.5ポイント上回りました。コロナ禍前の割合まで戻っていないものの、徐々に回復傾向にあります。

また、芸術鑑賞した人のうち、コモッセの文化ホールで鑑賞した人の割合は79・0%で、前年を9・7ポイント上回りました。コモッセでの芸術鑑賞が市民に根付いてきていることがうかがえます。コロナ禍の影響により、文化ホールでのイベントなどの中止や延期が余儀なくされていますが、感染症対策を講じながら文化芸術活動が行われており、今後も、引き続き市民がさまざまな芸術に触れる機会の創出に努めていきます。

1年間にコモッセを利用した割合



前年を4・1ポイント上回りました。年代別では、30代と70歳以上が大きく増加したものの、50代が大きく減少したため、全体の増加率が抑えられた結果となっています。利用しない理由として、「コロナ禍による自粛」のほか、「興味のあるイベントがない」などの意見が多く、コロナ禍の沈静化が期待される一方で、「用事がない」といった声もあることから、イベントの内容や情報発信の仕方を工夫しながら、多くの人に利用されるよう取り組んでいきます。

「鹿角市2030ゼロ・カーボンシティ宣言」の認知度

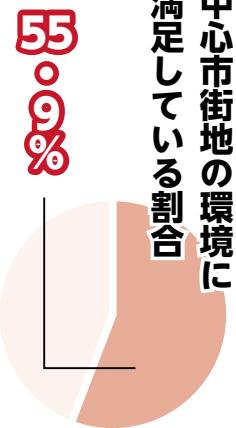


2030年までにカーボンニュートラルを達成するためには、全市を挙げた取り組みが求められ、さらなる意識醸成を進めていくことが必要です。

カーボンニュートラルで期待する取り組みについては、「太陽光・風力・水力などにより生み出された電気の利用」が最も多く、次いで「リサイクルなどの資源循環への取り組み」となりました。本市の特長である豊富な再生可能エネルギーの活用を進めるとともに、市民に身近で効果が実感できる取り組みを進めていきます。



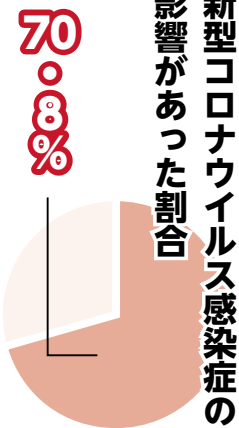
中心市街地の環境に満足している割合



前年を2・1ポイント下回りました。不満と感じる理由としては、買い物環境の魅力が減少していることや賑わいが少ないことが挙げられています。

人口減少やネット通販の普及などに伴い、まちなかの商業機能は低下傾向にあります。空き家への住み替え事業の推進など、まちなかへ緩やかに住む人を集めながら、商業、サービス業、情報関連産業などの集積や観光誘客などの取り組みを進めることで、中心市街地の満足度を向上させていきます。

新型コロナウイルス感染症の影響があった割合



影響の内容としては、「外出・交流機会の減少」が最も多く、次いで「スポーツ・文化活動の減少」、「収入の減少」となっています。

市内経済を活性化させるために望まれる施策としては、「商店や飲食店な

どの消費喚起」が最も多く、次いで「雇用対策、テレワークなど新しい働き方への支援」、「県外・海外からの観光客の回復に向けた取り組み」と続いております。引き続き、これらの施策に力を入れていきます。

